



◀ 3月12日(金) 第74回 卒業証書授与式を行うことができました。 ▶

新型コロナウイルスの感染防止のため、1・2年生や来賓・地域の方は参加することができませんでしたが、3月12日(金)に、本校の卒業式を行う事が出来ました。福津市教育委員様、卒業生の保護者様の、ご臨席ご参加で、卒業式が行われたことは、たいへんうれしく思います。卒業生は担任の呼名に、「はい」としっかり応え、三年間を振り返り、満足した表情で、自信に満ちた立派な姿を見せてくれました。



○ 学校長式辞

寒さもゆるみ、過ごしやすい季節となりました。ご来賓の皆様と、保護者の皆様と共に、令和2年度、第74回 津屋崎中学校 卒業証書授与式が行えますことを、心から感謝申し上げます。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今年は、コロナ禍で、これまでに経験したことがない事態になり、不幸なことや、大変なことがありました。いろんな制限もありました。しかし、中学生としての皆さんの三年間は、大変立派なものでした。部活動・社会体育での活躍、体育祭で頑張る姿、文化祭の取組、防災訓練、地域ボランティア、授業中の集中、清掃・生徒会などの日々の活動、皆さんの、素直で、真面目で、明るいところ、努力する様子、一生懸命な姿が見られました。そして、人としての良さが感じられました。

さて、皆さんに忘れて欲しくないことがあります。今から10年前、皆さんはまだ、小学校に入学前の、2011年3月11日、卒業式が行われた日の午後、東日本で、大地震がおこりました。そして、岩手、宮城、福島県の沿岸部を巨大な津波が襲いました。たくさんの方の命が、失われました。そして、さらにこの津波が福島原発事故をひきおこしました。当時稼働していた原発は、高さ15mの津波により破壊され、制御できなくなり、次々に危機的な事態に陥りました。そんな中、命にかかわる量の放射能を浴びながら、必死で、最悪のシナリオを回避しようと、原発事故修復に立ち向かった人たちがいました。彼らは「やるしかない」と自分の命と引き換えに、東日本全体が放射能で壊滅する事態を、ぎりぎりです。当時私は、ボランティアに向かっていたのですが、情報を聞き、現地でのボランティアを諦め、学校に戻って生徒会と共に、日々、募金活動を頑張りました。人の命を救おうとした、たくさんの方の命も、この東日本大震災で失われました。それは、今も続いています。

私達に、今、この環境があるのは、当たり前ではない。たくさんの方の支えや、犠牲があって保たれて、

今があることを理解しなければなりません。特に今は、長い間、コロナウイルスとたたかっておられる病院関係者の方々がおられます。感謝の気持ちを忘れてはなりません。

ところで、地球温暖化により、大きな自然災害がさらに増えていくことが懸念されている現在、日本には、人類の未来のために発明と研究を重ねている青年がいます。「世界を変える30歳未満の日本人」に選出された村木風海(むらき・かずみ)さん、東京大学1年生の19歳です。彼は小学校4年生から、8年間、地球温暖化の原因でもあるCO2 二酸化炭素の研究を行っています。高校2年生で、地球温暖化の原因でもある空気中のCO2を集める装置を、国の資金援助を受けて開発しました。「地球温暖化を止める方法から、人類第二の居住地としての火星開拓までを研究する機関を創設しています。そして、CO2 直接空気回収や、CO2からの燃料合成を研究し、成果を出しています。彼の夢は、地球温暖化を止めて世界中の75億人全員を救うこと。人類の第二の居住地として火星を開拓し、人類で一番目の「火星」になることだそうです。彼は、社会を変えるドミノの最初の一押しになりたいと語っています。私たちも夢を持ち、今があることを感謝して、おかれた環境をなげくだけでなく、できるかぎりの努力を諦めずに重ねていき、一つでも、多くのことを成し遂げて、いかなければなりません。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。これまで、中学校の教育活動への、ご理解ご協力、ありがとうございました。お子様の、これからの進路も、自分で決めさせ、あまり追い込みすぎないでください。見守る目は、忘れず、危険なサインは、決して見逃さないでください。皆様方の大事なお子様が今後も幸せな人生を送られますよう、前途に幸、多からんことを心よりお祈りし、式辞といたします。 令和三年三月十二日 福津市立津屋崎中学校 校長 清水光朗

○ 卒業生代表 答辞

低い雲間から見せる穏やかな日差しや、吹く風の中に春の気配が感じられるようになりました。季節は三度巡り、いよいよ旅立ちの日。慣れ親しんだ津屋崎中学校に別れを告げ、私たちは今日、卒業します。今、世界では新型コロナウイルスが猛威を振るっています。まだウイルスの流行が心配される中ではありますが、無事、今日の日を迎えられたことに感謝いたします。

真新しい制服に身を包んだ三年前、中学校生活への期待と緊張感に包まれ、この体育館で入学式を迎えました。長いようで短かった三年間。笑ったり、泣いたり、時には怒ったり。喜怒哀楽のぎっしりと詰まった毎日がよみがえります。何もかもが初めてだった一年生。小学校生活とは全く違う環境に戸惑いながらも先輩たちに必死についていきました。先輩としての一步を踏み出した二年生。様々なことを学び、「働く」ということの厳しさと喜びを実感した職場体験。最高の思い出となるよう、班で計画を立てた修学旅行。USJや京都、奈良に行き、日本の伝統文化に触れ、充実した三日間はあっという間に過ぎていきました。そして「中学校生活最後」をキーワードに始まった三年生。あつい戦いが繰り返された体育祭では、青ブロック「RAD BLUE」、緑ブロック「努緑・協緑・全緑」、オレンジブロック「旭日昇天」、黄色ブロック「月光煌々」、それぞれがブロックテーマのもと優勝を目指して、練習を重ねました。多くの困難を乗り越えて迎えた本番。ブロックを越え、かけ合う言葉はどれも温かく、仲間のありがたさが身にしみました。授業の難度やスピードが小学校時代と比べて上がる中、一生懸命に取り組んだ日々の学習。仲間とともに努力し、励まし合い、自分自身を成長させた部活動。一つ一つ終わるごとに絆が深まった学校行事。様々な思い出が鮮明によみがえってくる今、感謝の気持ちを伝えたい人がたくさんいます。

まず、地域の方々。「見守り隊」として、登校する私たちを笑顔で温かく見守って下さいました。また、学校行事では優しく声をかけて下さいました。私たちが安心して学校生活を送ることが出来たのは地域の方々のおかげです。皆様の優しい笑顔と声かけに励まされ、三年間、前を向いて頑張りが続けたことが出来ました。

次に、先生方。学習面ではもちろん、部活動や日々の生活面でも多くのことをご指導下さいました。授業でわからないところがあれば、一つ一つ丁寧に教えてくださり、進路では一人一人にしっかりと向き合い、私たちと同じように真剣に高校を選び、紹介して下さいました。また今年は新型コロナウイルスによって、多くの行事が自粛される中、修学旅行や体育祭を行って下さり、ありがとうございました。おかげで私たちは、仲間と一つの行事を作り上げることを大変さと、楽しさ、そして全力で物事に取り組んだからこそ感じられる大きな達成感を味わうことができました。体育祭では、誰よりも声を張り上げて私たちを応援して下さい、文化発表会やクラスマッチでは、例年通りにいかないことが多い中、私たちが満足できるよう、かげでたくさん準備して下さいました。このようなかけがえのない思い出を作ることができたのは先生方のおかげです。私たちに愛情を持って、時には優しく、時には厳しく接し、学校行事では生徒に負けないうらい全力で取り組み、一緒にこの津屋崎中学校を作り上げて下さった先生方の姿は

しっかりと私たちの目に焼き付いています。三年間本当にありがとうございました。

それから、私たちの一番の理解者である大切な家族。いつもやり場のない苛立ちを反抗的な態度でぶつけてしまつてごめんなさい。それでも、いつも私たちのそばにいて、そっと支えてくれてありがとう。本当はいつも感謝の気持ちでいっぱいだけど、それを伝えるどころか、ひどい態度ばかりとってしまいました。いつもは、恥ずかしくて言えないけれど、今ならはっきり言えます。ありがとう。これからはたくさん迷惑をかけると思うけれど、温かく見守って下さい。今日で義務教育が終わります。私たちを産んでくれて、そして今日まで育ててくれてありがとう。おかげで私たちは素敵な仲間に出会い、楽しい日々を過ごすことができました。今まで貰ってきたたくさんのもへの恩返しができるような強く優しい人になるために、それぞれの道を一步一步進んでいく私たちの背中をこれからも、そっと支えていてください。

そして、今までともに過ごしてきた三年生のみんな。今年は先の見通しがつかず、どのような一年になるのかとても不安でした。でもどんな時でも明るく、前向きで、行事ではリーダーを中心に盛り上げてくれたおかげで、この一年は決して不安な一年ではなく、私たちの思いが込められた、私たちにしかしか作り上げることのできない一年になった、私はそう思います。私は以前からこの学年で本当に良かったと思っていました。苦しんでいる人がいたらそっと手を差し伸べてくれる、困っている人がいたら真剣に向き合ってくれる、頑張っている人がいたら応援してくれる。そこにはさりげない本当の優しさがいつも溢れていました。そして何ととっても、私はこの学年の素直さ、そして元気の良さが大好きです。私はみんなの優しさと明るい笑顔に何度も救われ、支えられてきました。私にとって、みんなは「仲間」以上の本当に大切な存在です。今までの学校行事、一つ一つがかけがえのない思い出になった。苦しかったことも今思えば良い経験だった。そして津屋崎中学校の生徒でよかった。みんなと一緒にいたからそう思えます。本当にありがとう。

明日からは、この制服で校門を潜ることも、朝の教室で友達と挨拶を交わすこともありません。何気ないことで笑い合った日々が愛おしくて、名残惜しくて、立ち止まってしまうようになります。正直に言えば、もう少しだけみんなと一緒にいたい、そして何気ないことで笑いたい、そんな気持ちでいっぱいですが、私たちは今日から新しいスタートラインに立って、それぞれの道を歩んでいかなければなりません。これから自分の道を歩んでいく中で、楽しいことばかりではなく辛いこともきっとあると思います。そんな時には、みんなから貰った勇気や笑顔を胸に、たとえ少しづつだとしても、しっかりと自分の道を切り開いていきます。これから先、大きな壁にぶつかったとしても、みんななら大丈夫です。自分を信じて、胸を張って自分の道を進んでいってください。

最後になりましたが、津屋崎中学校のますますの発展をお祈りして、答辞とさせていただきます。

令和三年 三月十二日 卒業生代表 吉村 新菜

○ 送辞 在校生から送る言葉

校庭の木々も芽吹き始め、春の訪れを感じる季節となりました。卒業生の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

今、皆様は、この津屋崎中学校での三年間をどのように振り返っていらっしゃるでしょうか。多くの出会いの中で貴重な体験をし、かけがえのない様々な思い出が頭に浮かんでいることと思います。学校生活の中で、いつも先輩方はリーダーシップをとってくださいました。部活動でも先頭に立って私たちを導いてくださいました。「百花爛漫～ひらけ！387人の笑顔の花～」のテーマのもとに行われた体育祭。短い練習時間の中でも、「体育祭を一生心に残るものにする」という強い決意を胸に一生懸命に指導してくださいました。先輩方の姿は、とても輝いて見えました。各ブロックのパフォーマンスでは、一・二年生のお手本となる大きな声・踊りで全体を引っ張ってくださいました。練習でも、私たち一人一人に笑顔で丁寧に教えてくださいました。そのような先輩方の姿に私たちは何度も元気づけられました。

新しい伝統が生まれた文化発表会。新型コロナウイルスの影響で、合唱コンクールは行えませんでした。素晴らしいモザイクアートを完成させることができました。それもひとえに先輩方が一つ一つ丁寧に仕上げてくださいましたからだと思います。初めての挑戦でしたが、完成に向けて、懸命に取り組む姿に感動しました。今回の文化発表会では、例年とは違ったクラス・ブロックの絆が生まれました。様々な制限がある中、私たちの先頭に立ち、リーダーシップをとってくださり、本当にありがとうございました。

今、こうして振り返ってみますと、先輩方は常に私たちの目標であり、心の支えでもありました。先輩方が学校のため、自分の夢のために日々試行錯誤し、努力してこられた姿を、私たちはずっと見てまいりました。これからは先輩方が築き上げてこられた伝統を、私たちが継承し、更に良いものへと発展させていきたいと思っています。

最後になりましたが、先輩方にモーツァルトの言葉を送りたいと思います。

“ 夢を見るから、人生は輝く。 ”

先輩方は四月から、一人一人が選んだ新しい道へ進まれます。より広い世界へ羽ばたく今、きっと大きな期待と反面、不安を感じていらっしゃるでしょう。時には、つまずくこともあるかもしれません。そんな時は、この津屋崎中学校で学ばれたことを思い出し、乗り越えていってください。在校生一同、それぞれの夢に向かって突き進まれる先輩方を、心より応援しています。今回、先輩方の旅立ちを見届けることができず残念ですが、卒業される皆様のご健康と更なる飛躍をお祈りして、送辞といたします。

令和三年 三月十二日 在校生代表 生徒会長 西野優華

